

沖縄県宜野湾市の事例

沖縄県コザ保健所 系数 公

<p>自治体の概要</p>	<p>宜野湾市は沖縄本島の中部西海岸に位置，県庁所在地のある那覇市から約 12 キロ北にある。総面積は 19.37 平方キロでそのうち軍用地が 33%を占めている。市の中心部に，現在移設問題で騒がれている広大な普天間基地があるため，街はドーナツ状に発展してきた。すなわち，普天間基地を囲むようにして宜野湾市民は生活している。近年，西海岸地区がコンベンション・リゾート都市構想のもとに発展を見せており，市の人口は平成 10 年 12 月末現在 84394 人と，過去 10 年間で約 18%増加している。年間出生数は 1269 人で，出生率は 15.1%（いずれも平成 9 年）と県平均よりも高い値を示している。また，1995 年の老年人口割合が 7.97%で，全国でも老年人口の小さい市町村ベスト 20 にランクされるなどから，若者と子どもの多い街と言えるであろう。</p>	
<p>一 押 し の 事 業</p>	<p>事業名</p>	<p>子育て応援本「ぼけっと」の作成</p>
	<p>事業の目的</p>	<p>宜野湾市に住む子育て中の親が気軽に子育てに関する情報を得ることができる</p>
	<p>対象者</p>	<p>就学前の子どもとその親</p>
	<p>事業の概要</p>	<p>・情報の提供（子育て応援本「ぼけっと」） ・各種教室健診や乳児医療費助成等の申請時に配布 ・項目は「公的制度」「買う」「遊ぶ」「食べる」「学ぶ・リフレッシュ」「預ける」「病院」の 7 項目に分かれお母さんたちの日頃の育児経験を生かした視点や意見を基に，情報が盛り込まれている。 172 ページ。A5 版。</p>
	<p>事業の開始時期</p>	<p>平成10年 5 月～平成11年 2 月</p>
	<p>事業の実施に至ったきっかけ（事業の開始の背景）</p>	<p>・保健相談センターの通常業務を通し，子育ての様々な情報が必要であると同時に，母親側に就学前の子育てに関する情報へのニーズが高い ・乳幼児の基本方針の「いつでも気軽に情報が得られ相談できる」の中から作成の実施に至った。</p>
	<p>実施についての職場内部の合意形成</p>	<p>母子保健計画のプロセスの中で子育て情報誌の必要性を感じ，ボランティアスタッフ・市職員との共同作業で担当部門の役割の明確化を図った。</p>
	<p>予算，人的体制 補助金の有無と種類</p>	<p>約 82 万円（5,000 部） ボランティアスタッフ 17 人と市職員 8 人 補助金は無く，市単独予算の確保には苦労したが，母子保健計画が後ろ盾になった</p>
	<p>対象者の把握及び選定方法（ルーチンワークとの関連）</p>	<p>・内容については，ボランティアスタッフのニーズと行政側の必要性を話し合い，項目を設定した。 ・配布については保健相談センターと母子福祉課の窓口で市民対象に配布している。</p>
	<p>関係機関への協力要請（担当者，手段，協力要請の手順）</p>	<p>・子育てサークル w a i w a i キッズクラブへの声掛けにて，ボランティアを募る。 ・関係機関へは行政の方から文書で取材の依頼をおこなった</p>
<p>事業の実施要領づくりに参画した人</p>	<p>実施要領なし</p>	
<p>実施できた促進要因</p>	<p>・住民から子育てに関する情報誌の強い要望あり。 ・「ぼけっと」製作スタッフ発足会の新聞掲載をみた市内外の住民から激励や期待の声が寄せられた。</p>	

<p>阻害要因とその克服</p>	<p>行政が出す出版物ということから客観性を求められるが、ボランティアスタッフからは主観を盛り込みたいとの意見が出され、その調整が難しかった。今回は客観性に重きを置いたが、ボランティアスタッフの主観の部分は別の機会に検討していく。</p>
<p>サービスの受け手の感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お母さんがアレルギーで困っている時、自然食品を取り扱っている所を知ることができ良かった。 ・本を参考に歯科医院を選ぶことができた。 ・病院の情報が細かくて良い。 ・助産婦の情報は、普段なかなか得ることができないのでとても良い。 ・保育園の情報は、預けるところを選ぶのに大変参考になりよと思う。 ・子どもに関する情報だけでなく、おかあさんのための情報も盛り込まれているので読んでいて楽しい。 ・今までになかったものということで離島からの問い合わせもあった。 ・ミルク支給の問い合わせが多くなった。 ・子連れで行けるレストランの紹介は良かった。 ・入院中子どもを預かってくれる所もあたらしい。 ・授乳室設置のデパートの紹介があたらしい。
<p>担当者の感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関からの行政への協力がスムーズに得られ、アンケート等の情報の収集が円滑に実施でき、細かい情報も載せることができた。 ・通常業務をしながらボランティアとの話し合いも何度か持ち、また校正の段階でもかなり時間がとられた。
<p>取り組みについてのPR</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・住民へ 新聞掲載(「ぼけっと」作成スタッフ発足時、「ぼけっと」完成時)、ラジオ放送 ・関係機関 公文書での取材の協力要請をととしてPRした。 ・公衆衛生関係者 保健所会議等で保健所、他市町村へ作業の進捗状況を報告。完成本の配布により、他市町村も情報誌の作成にとりかかる。
<p>事業効果の客観的な評価指標</p>	<p>8月下旬より「ぼけっと」を配布、マスコミ各社の取材があり、その後問い合わせが多数あった。「ぼけっと」の評価として、10月の乳児一般健診会場で220人のお母さんへ聞き取り調査を行った結果85人(39%)すでに受け取り活用していると答えた。ほとんどの方が、気軽に情報が得られ良かったとの声が多かった。</p>
<p>反響や波及効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ新聞の取材により、宜野湾市にとどまらず離島を含む他市町村から問い合わせがあった。 ・公衆衛生関係者からも関心の声が高い。 ・他市町村にも独自の子育て応援本の製作にとりかかるところができた。
<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・改定、増刷の予定 ・子育てサークル独自の主観性のある子育て情報誌の発行等、様々な活動のできる自主サークルの育成を検討している。

ルーチンワーク	各事業の目的をスタッフで確認しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ全員で前年度の事業反省を踏まえ、目標達成に向けての協議を実施。また、随時、ミーティング、回覧等でスタッフ全員が事業の実施状況を確認できるようにしている。 ・また、わかばプラン（母子保健計画）作成をとおり、母子事業全体の目的の再検討を行った。
	モニタリングとして位置付けているか	住民組織である「こうのとりの倶楽部」の支援を通じて情報の収集に努めている
	事業委託の有無	なし
	直営で実施するメリットを発揮できているか	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の身近なところに保健相談センターがあり、気軽に来所しやすい。 ・母子保健推進員の訪問活動等で住民への保健相談センターの周知が図られている。 ・個別の病院健診では配置が難しい栄養指導、保健婦指導のスタッフが配置されていて、また、実習が受けられる。 ・仲間作りに結び付く。
	ルーチンワークで対応しきれない対象者を把握しているか	している
計画の進行管理	担当課、担当係内における進行管理の状況	担当課で計画の状況をチェックし、母子保健計画策定会議にかけていく。次年度実績の評価として5月に1回目を開催、中間報告と次年度の計画として10月に2回目の開催予定としている。
	進行管理組織の構成	母子保健計画策定委員会
	進行管理組織に下部組織があるか	なし
	関係機関の取り組みについての情報	各関連機関との連携に伴う事業の進捗状況報告とそれに対する質疑が行われている
	評価指標についての論議が行われているか？	母子保健一業の内容、受診・参加率等を確認し、現状とあるべき姿とのギャップについて検討。その他母子保健計画をどう住民サービスへ活用していくか、市民へのPRについては母子保健計画ダイジェスト版を発行予定。
母子保健事業評価	評価指標の決定プロセス	実施要綱等、作成の際にスタッフミーティングを開き、わかばプラン（母子保健計画）実施計画書等で示された目標を達成するための指標として評価指標も設定している。
	評価指標は関係者により認知されているか	<ul style="list-style-type: none"> ・母子保健策定委員については年2回の委員会の席上で計画・実績報告を行い審議を受ける。 ・受益者へは指標については「わかばプラン」のダイジェスト版を配布することで知らせる予定（平成12年度）。実績と評価については未定だが個々の意見や質問についてはその都度事業へ反映させたり伝言板などとおして返答している。
	評価のための情報収集	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育の評価としては教室終了後と3～6カ月後にアンケート調査を実施。 ・健診や相談業務に関しては年度末にまとめている。

	評価結果を住民や関係者に還元しているか	<ul style="list-style-type: none"> 職員については年度末に業務反省会を行い、それ以外の委員へは健康づくり推進協議会や母子保健計画策定委員会の席上で報告している。住民への評価結果の還元については健康・福祉都市づくりフェア等の冊子により、行っている。 エブロン通信を利用して市広報誌への掲載。 					
マンパワー	マンパワーの変化		H 7	H 8	H 9	H10	H11
		保健婦	7	6	10	10	10
		栄養士	0	0	0	0	0
	マンパワー増の決め手	<ul style="list-style-type: none"> 地域保健法改正に伴い、駐在保健婦の引き揚げが行われ市保健婦の増員となる ゴールドプランでの保健婦増員の計画により、現在の定数を確保した。 					
	保健所との人事交流	なし					
自治体内の専門職の異動	人事課席への移動枠はあるが、現在まで異動希望なし						
予算	予算の変化（印象）	増えた（健診，教育での事業拡充に伴う保健婦，助産婦等のマンパワーの増員）					
	予算増加の決め手	<ul style="list-style-type: none"> 母子保健事業内容拡充の検討に伴う職員の意欲。 母子保健計画策定に基づく委員会からの事業拡充への提言。 					
	評価指標の有効性	有効だった					
住民の主体性	主体性が向上したか	向上した					
	主体性向上を示す具体例	<ul style="list-style-type: none"> 独自の育児サークルをおこし，新聞づくりなどの活動を続けている。 わかばプランの策定をうけ，各団体内でそれぞれが実施すべき事項としてうけとめ，改善の動きをみせている。 エンゼルプラン・わかばプランを受け，住民がボランティアとして参加。情報誌作成に取り組み配布に至った。 					
	主体性を引き出すために有効だった取り組み例	<ul style="list-style-type: none"> わかばプランの策定に受益者グループの意見を盛り込むことで計画への関心を高めた。 情報誌作成を新聞・ラジオ等でPRすることで関心をひきボランティアスタッフ参加を促した。 サークル活動を各事業をとおしてPRすることで参加を促し，また会場等を提供することで活動の継続を支援している。 母子保健計画策定委員に受益者グループの代表が参加。 					
計画を推進するうえでの困難	<ul style="list-style-type: none"> 公園使用並びに幼稚園，児童センターの遊具使用や，保育所利用等，母子保健事業といっても母子を取り巻く環境は保健相談センターのみで対応できる事柄だけでなく，他課との関わりあいが増えて複合的施策を講じなければならないところに対策の困難さがある。 予算獲得が難しい 						
計画の見直しとその阻害要因	<p>平成 15 年に検討。アンケート調査に基づく事業継続の評価，事業統合等のための比較検討を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> あるべき姿の達成に向けて三者（個人，地域，市（学校））協力しての取り組みを再検討し，新たな指標の模索を図る。 マンパワーの確保が難しい。 						
保健所への期待	<ul style="list-style-type: none"> 災害時のシステムづくり，対策についての支援 市町村の事業運営に関する支援，・補助金該当事業に関するアドバイス 						